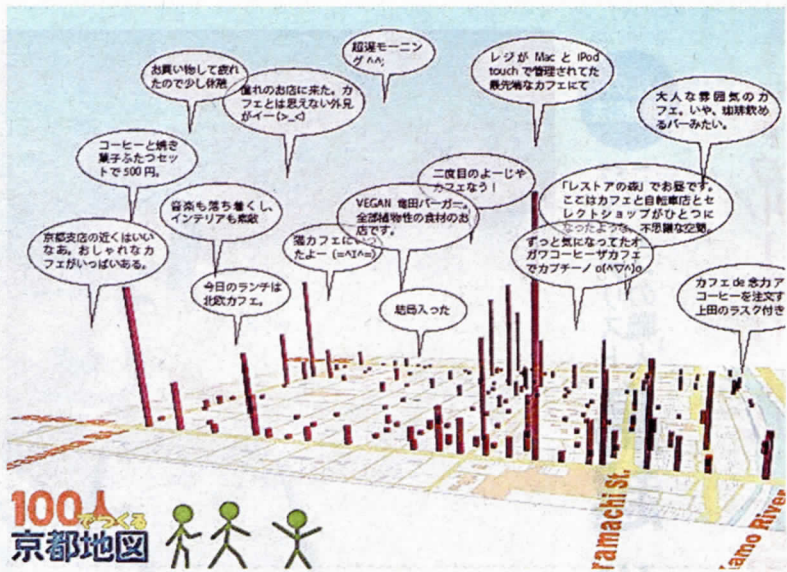


口コミ情報を立体画像に

多くの人が街を歩き、みんなが「どこで何を感じたか」の口コミ情報を立体的に重ねた地図をつくるイベント「100人でつくる京都地図」が27日、京都市右京区の嵐山周辺である。たんなる名所案内ではなく、街の息づかいが聞こえる観光地図を目指す。

京都大デザイン学大学院連携プログラムの主

催。自分の居場所が簡単に分かるGPS(全地球測位システム)機能付きのスマートフォンなどを持った参加者が「おしゃれなカフェがある」「歴史を感じさせる街並みだなあ」などの感想を、「つぶやき」として専用サイトに送る。この情報は地図上に表示され、つぶやきが多い場所の棒グラフが伸びてゆく。参加者はリ



100人でつくる京都地図

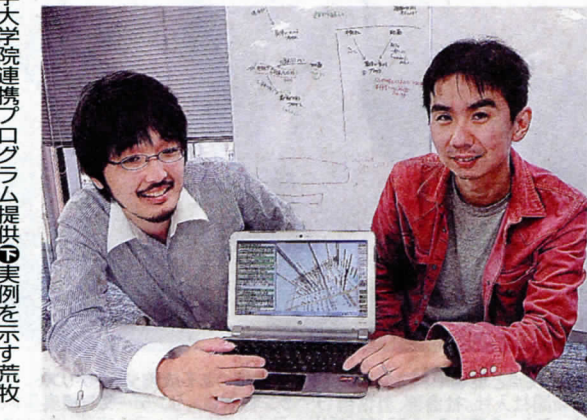
つぶやき募集

アルタイムで地図を確認しながら散策を楽しみ、自分も地図づくりに参加できる。

イベントを企画した北雄介助教(都市計画)は「従来の観光地図は点と点を紹介するだけだったが、その間を多くの『集合知』で埋めることで街全体の魅力を明らかにできる」という。GPS機能付きスマホの普及など

「言葉が位置を持つ」時代になったから可能になった試み。今年7月にも三条通、四条通など京都市中心街で実施したが、「嵐山」で実施すれば台風

また、つぶやき情報の解析に当たる荒牧英治准教授(自然言語処理)は「外国人に参加してもらい『案内の標識が読めない』などとつぶやいてもらえば今後の観光政策にも生かせる」などの可能性を指摘している。



准教授(右)と北助教(左) 下京区の京都リサーチパークで

同プログラムは参加者を募っている。町歩き5時間のたっぷりコース(午前10時半集合)と、3時間のおためしコース(午後0時半集合)がある。どちらも集合は同市右京区嵯峨天龍寺広道町のコミュニティ嵯峨野3階会議室。事前説明や地図の鑑賞などを含め午後6時ごろ終わる。無料。携帯電話持参。先着計100人。申し込みは<http://www.100ninmap.com/application.html>。

【神原雅晴】